

- 2 社会の要請にこたえる体験活動等事業  
 ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業

令和7年度 佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業  
 体験フェスティバル2025 ～平和（PEACE）～

- 〔主催〕 国立諫早青少年自然の家  
 （企画・運営：佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）  
 〔期 日〕 令和7年11月24日（月・祝）10:00～15:30  
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家  
 〔参加者〕 190家族 703名  
 〔協力団体〕 諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館、佐賀県・長崎県青少年教育施設、日本ボーイスカウト長崎県連盟、ガールスカウト長崎県連盟、諫早消防署、自衛隊長崎地方協力本部諫早地域事務所、長崎河川国道事務所、長崎県シェアリングネイチャー協会、長崎県レクリエーション協会、諫早市子ども会育成連合会、HAPPY VOICE、合同会社グロース、長田町婦人会、白木峰高原育成会、ハッピーバルーン、ふれあい移動動物園オスカー'S、(有)菅原産業、コンパスグループ・ジャパン(株)諫早店、NPO 法人インフィニティー、自然環境ネットながさき、HUMMING BIRD、\*Hare\*  
 〔担当職員〕 全職員

1) 事業の趣旨

家族や仲間たちと様々な体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、共に楽しく過ごす平和な時間の大切さを改めて考える機会とします。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進します。

2) 目標

- ①多くの家族に体験活動の楽しさを知ってほしい。
- ②多くの団体と連携して、楽しい活動を提供したい。
- ③体験活動の重要性について普及と啓発を図る。
- ④家族や仲間と過ごす平和な時間を改めて考える機会とする。

3) プログラム

日帰りプログラム	
10:00	活動開始
	・ステージイベント ①10:00～ ②10:40～ ③13:00～ ※①ミニコンサート ②③三線演奏&ダンス
	・特別プログラム ①11:10～ ②13:40～ ※鷹パフォーマンスショー
	・キャンプ体験 [火起こし・たき火体験、薪割り体験、テント体験、ネイチャーゲーム]

- ・防災/しごと体験 [煙体験ハウス、消火器操法、自衛隊車両の展示、自衛隊制服試着、治水 模型展示、浸水 VR 体験、働くくるま体験、タブレットを使った防災ウォークラリー]
- ・あそび体験 [クップ・モルック体験、スポーツチャンバラ、小動物ふれあい体験]
- ・クラフト製作 [凧づくり、ペンダントづくり、ガラスサンドアート、クリスマスリースづくり、ヒンメリ製作、革を使ったキーホルダー製作、ノッティングボード製作等]
- ・食事/交流ブース [軽食販売、キッチンカー、農産物販売、雑貨販売、フリー相談コーナー]

15:30 終了

#### 4) 事業展開

YUNA さんとコーチのミニコンサート



三線演奏&ダンス



鷹パフォーマンスショー



火起こし体験



自衛隊車両展示 (制服試着)



働くくるま体験



クップ・モルック体験



ガラスサンドアート



クリスマスリースづくり



## 5) 評価

### ① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	悪かった
89%	11%	0%	0%

### ② 参加者の声

- ・はじめて来ましたが、また来たいと思いました。とても良かったです。
- ・子供たちが楽しんでいました。
- ・YUNAさんの素晴らしい歌声に感動しました。
- ・普段体験できないことを、たくさん体験できて良かったです。
- ・ロープワーク、火おこし体験、まき割りが楽しかった。モルックも盛り上がりました！
- ・レストランのメニューが格安でおいしかったです。何十年ぶりに自然の家に来て、懐かしかったです。
- ・素敵な体験で良かったのですが、有料のブースははっきりとしたわかりやすい表示にしてもらえたらよかったです。

## 6) 成果と課題

### ① 成果

- ・今年度は毎年10月末の開催日（昨年度に限っては2月開催）を教育事業との兼ね合いもあり、1か月遅らせて11月末の祝日に開催しました。元々10月末の開催については、気候的にも安定した行楽シーズンであるため、様々なイベントが各地で開催されていることから、例年、本イベントへの集客が伸び悩んでいましたが、開催時期をずらしたことにより、10月末開催時よりも1.5倍ほどの来館者がありました。また、長崎県を会場とした国民文化祭（ながさきピース文化祭 2025 開催期間：R06.09.14～R06.11.30）の開催期間中でもあったことから、イベントへの参加意欲が高まっていた影響も増加の要因と考えられます。
- ・広報については例年、諫早市内の公共施設や記者クラブへチラシを配布、SNS中心での広報を行っていましたが、今年度は加えて諫早市内の学童クラブ（定員数分）へチラシを配布したことから、初めて参加来場された家族の数が増える結果となりました。
- ・協力団体には国民文化祭に合わせたテーマ「平和・PEACE」を意識した活動を出展いただいたことで、テーマに沿ったイベントとなりました。また、多くの協力団体との連携をさらに深めることができました。
- ・アンケートを提出いただいた方には、景品（キラキラシール）を差し上げる試みを行ったところ、回収率を高めることができました。

### ② 課題

- ・駐車場から本会場への途中にイベント会場を設置していたことから、受付への誘導がはっきりしなかった。順路、動線をしっかりと考え、事前に案内するなど対策が必要でした。
- ・サテライト会場である近隣施設（コスモス花宇宙館）への集客があまりよくなかった。案内のやり方やサテライト会場の有無も含めて検討の余地があると感じました。
- ・各ブースとも人気があってよいことではあるが、「これを目当てにきました。」というリピーターのアンケートが多く、ブースのマンネリ化も否めないため、出展者の新規開拓や出展内容の変更交渉など続けていきます。